

常陽新聞

発行所 常陽新聞新社
 本社 〒300-0051
 土浦市真鍋2-7-6
 電話 029-821-1780(代)
 FAX 029-822-6743
 水戸支社 〒310-0852
 水戸市笠原町1050-1
 電話 029-244-6420(代)
 FAX 029-244-6474
 東京支社 〒104-0061
 中央区銀座8-10-8 銀座8丁目ビル4階C-2
 電話 03-6252-1547
 FAX 03-6252-1534

©常陽新聞新社 2007

女性研究者の現状報告

つくばでシンポ 近く国に要望書

「女性研究者、技術イブアクションを考え者が輝くとき—ポシテ—」をテーマに、第



参加者の質問に答える研究者ら—つくば市吾妻のつくば文化会館

12回女性研究者技術者委員会(石渡眞理子委員長)は30日、つくば市吾妻のつくば文化会館で第12回研究者技術者全国シンポジウムを開いた。

研究者や技術者が、性別にかかわらず、安定した職を得て、科学、技術の発展に力を発揮するためにどのような運動を行うべきかを探るのが目的。

石渡委員長は約70人の参加者を前に、女性研究者、技術者を取り巻く状況などを基調報告し、「科学のバランスのとれた発展を図る

ためには、女性研究者の問題を女性だけのものとせず、研究者全体で問題の解決に向けて取り組んでいかなければいけない」と話した。

早稲田大学院法務研究科の浅倉むつ子教授が「学術の世界における男女共同参画」を題に記念講演をしたあと、任期付き研究員や出産・育児体験者、男女共同参画チーム長など5人が「研究の現場における性差別の実態、調査結果、差別をなくす取り組み」といったテーマで女性研究者、技術者の職場環境について報告した。

最後に浅倉教授や報告をした研究者、参加者による討論会が行われ、「参画室を作りたいたいが、積極的に参加してもらったためにはどうしたらいいか」などの質問が出た。

討論会やアンケートで挙げられた要求などをまとめ、近く内閣府総合科学技術会議などに要望書を提出する予定。(藤井麻紀子)